

本年度の重点目標	①学ぶ姿勢と確かな学力を身につけさせ、進路希望の実現を図る。 ②部活動、生徒会活動、学校行事の一層の活性化を目指す。 ③基本的な生活習慣を確立させるとともに、規範意識の醸成を図る。 ④地域、PTA等との連携を強化する。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	①家庭との連携 ②式典の効率化	①一つのPTAとして活動の進め方を検討。 ②式典がスムーズにすすめる工夫をする。	①本校のホームページを活用して、PTA行事を周知することに努めた。また、PTA新聞の内容を改善するなどのPTA専門委員会の活動を充実させた。 ②年度初めの入学式・離任式をはじめその他の式典でも、進行計画どおりにいかなかった部分や時間経過を詳細にメモし、次年度に生かす資料作りに努めた。
教務部	指導要録の記載について統一を図る	①指導要録の点検において間違いが多かったところや、統一できていなかったところについて正しい記載を確認する。 ②指導要録の書き方についてプリントを作り直す。	①「愛知県高等学校生徒指導要録の記入上の注意及び記入例等」などの文書を参考に退学者や転学者、留学者などの特殊な場合も含め、正しい記載について確認した。 ②本校の指導要録に合わせて「指導要録の記入上の注意および記入例等」というプリントを作り全教員に配付し、単位等認定規定とともに保管してもらった。
生徒指導部	①基本的な生活習慣の確立（遅刻防止） ②身だしなみ指導の徹底 ③交通安全意識・登校マナーの向上	①8時35分に教室へ入室、5分前登校の継続指導、遅刻過多生徒への指導強化。 ②身だしなみ指導、事後指導、登校指導、交通安全指導時の校門指導を継続して実施。年度当初に「生徒指導に関する確認事項」を全教員に配付し、指導内容・方法の確認。 ③交通安全指導への生徒参加、地域へのアピール。PTA合同指導時に保護者のたすき利用、自転車登録・点検時に交通安全指導の徹底。	①4月～12月末の遅刻指数0.26、遅刻総数255件（昨年同時期0.26、261件）。昨年並みの状況である。始業5分前登校の遅刻5回以上の生徒への指導は2件（昨年度は8件）で、学校全体で早めに登校する雰囲気が出てきた。 ②身だしなみ指導件数は4月～12月末において減少傾向で、1年は62件、2年は26件（昨73件）、3年37件（昨72件）となり、各学年において生徒の自主的改善が見られる。また、年6回実施している「身だしなみ指導」の指導数も減少し、事後指導期間の短縮が図られた。 ③交通事故報告件数は4月～12月末までに20件となる（昨24件、一昨21件）。事故直後の対応が不適切な生徒がいるので、生徒全体に注意・指導が必要である。
進路指導部	自己理解と適切な職業観に基づく進路決定	①LTおよび総合的な学習の時間での進路指導と進路行事との関連性を深めるための方策を工夫する。 ②長期休業中のインターンシップを紹介する。 ③キャリア教育の計画を立案し、作成することで、学校教育全体の中に位置づける。	①ワークシートをしっかりと活用して、進路行事に向けた準備と進路実現に向けた資料作りができた。 ②現状では希望者と受け入れ先の人数が合致しているため問題なく実施できているが、人数が変化してきたときに受け入れ先をどう決めていくかを考えておく必要がある。 ③今年度は全体計画を示して、キャリア教育の意義や教育活動での具体的な位置付けを職員に確認してもらった。
保健厚生部	健康の自己管理能力の育成	①保健委員会を毎月開催し、「保健だより」の発行を行う。 ②保健室利用者を調査し、昨年と比較する。 ③保健室利用者の「生活習慣および食生活について」の調査を行う。 ④スクールカウンセラーを有効活用する。	①1月の生徒保健委員会の開催、「保健だより」の発行により、生徒の健康意識を高めることができた。 ②保健室利用者数は、前年度比、内科11%増、外科13%増であった。内科は、特定生徒の来室が度重なったこと、外科は、登下校中における事故の増加が原因と考えられる。 ③保健室利用者の朝食摂取率が昨年度はやや低かったが、保健室での指導助言が効果改善がみられた。 ④スクールカウンセリング利用件数は、昨年度比44%増であった。要因として、継続してカウンセリングを利用する保護者、生徒の増加、カウンセリングが周知されたことなどがあげられる。
図書情報部	図書館活動の活性化	①1年生に図書オリエンテーションを行い、図書館利用の充実を図る。 ②新着図書の情報紹介しながら、行事や時期に応じた図書の話題を提供する。 ③ホームページを充実させる。	①様々な種類の本やリクエストの多かった本を入荷し、図書室を訪れる生徒も若干増えたように思われる。 ②図書企画でウッドクラフト作りやエコストーブ作りなど今まで行ったことがないような企画を行い、好評だった。 ③ホームページへのアップも、頻繁に行うことができた。
生徒会部	生徒会活動のさらなる活性化	①1年生が9クラスとなった球技大会・体育大会がスムーズに運営されるよう、方策を考える。 ②生徒会活動の年度を越えた継続性を高め、執行部が主体的に活動し、指導的立場として有志実行委員と連携を取れるようにする。 ③体育大会の応援の「質の向上」を図る。	①1年生1クラス増に合わせ、ブロック割り・競技人数を変更して体育祭を実施した。次年度は今年度と同クラス数のため、男女の人数差や出場比率を再検討しながら、計画を立てた。控え席のテントは、大府東高校と日程調整がつかず困っていたところ、石ヶ瀬コミュニティのご厚意でお借りすることができ、大変ありがたかった。 ②前期執行部から4人、実行委員から1人が後期執行部となり、学校祭の反省を生かしながら次年度の計画を立てている。本年度実行委員を経験した他の生徒や、新たにリーダーシップをとれるような力のある生徒を育て、引き継いでいけるように継続的に指導していきたい。 ③多くの生徒がさまざまな形でブロックの応援に参加し、充実した内容となった。応援を得点化するための内容や基準を明確にして、さらに検討していきたい。
生活文化科	・専門的な知識と技術を定着させる。 ・生活文化科の学校行事や学校家庭クラブ活動について、さらなる充実を図る。	①各種検定の指導方法を工夫して合格率を高める。 ②学校祭のファッションショーや学校家庭クラブ活動の運営について充実を図る。 ③OHC活動を他校との交流に発展させる。	①第40回家庭科技術検定では、1級（被服製作の洋服、和服及び食物調理）について全員合格を収めた。現在は、今後行われる情報処理検定や秘書技能検定の受験に向けて指導をしている。また、秘書技能検定においては、第104回の検定において、3年生が準1級の筆記試験に合格した。現在は面接試験に向けて指導中でもある。検定受験は、生徒の学習意欲を高める大きな背景となるので、学習効果を高められるよう効果的に指導に生かしたい。 ②文化祭における3年生のファッションショーについて高評価をいただいた。来年度についても、保護者や地域住民からの声を大切にして、他の行事等の充実も図りたい。 ③校外での活動は、当日までの準備も含めて生徒が主体的に活動することの学習に大変効果的である。評価を受けることが次への意欲にもつながるので、地域や他校との交流が続くよう計画をしていきたい。
第一学年	基本的な生活習慣と学習習慣の確立	①時間・規律を守り、コミュニケーションの第一歩である挨拶を気持ちよくすることができる集団を育成する。 ②授業を真剣に受けることのできる環境を整え、家庭学習の習慣を身につけさせる。 ③提出物を期限までに提出させる。 ④保護者との連絡を密にし、情報交換を心がける。	①8時35分の教室入室や挨拶については、日常の学校生活でしっかりと浸透している。引き続き、働きかけをしていきたい。 ②学習記録や週末課題などが習慣化されて、生徒は勉強に対する意識を高く持っている。この高い意識をつぶさないように学年団でバランスを考えて取り組ませていきたい。 ③長期休業中の課題はほぼ全員が期限厳守で提出できている。また様々な提出物も教職員の早めの指導で、生徒は徹底できている。 ④保護者、学年団、管理職へのごまめな報告、連絡、相談を迅速にとりながら対応に努めてきた。
第二学年	進路目標の設定と学習習慣の定着	①LTや総合的な学習の時間を利用し、生徒の適性に合った進路目標を設定させる。 ②各教科で課題を定期的に与えることに加え、長期休業中の課題やGW課題など時期に応じて適切な課題を与え、学習習慣の定着を図る。	①LTや総合的な学習の時間で進路に関する情報を提供し、生徒が自身の進路を考えている。1学期、2学期の個人面談では、次年度の科目選択とも絡めて、的確に指導した。 ②各科目担当の指導もあり、提出物の状況は良い。長期休業中の課題も若干、遅れる者もいたが、数日のうちに全員完了している。
第三学年	希望進路の実現	①面接などを通して、進路希望を的確に把握する。 ②希望の進路に進むことができるよう、学力を付けさせる。 ③学年団と進路指導部が連携して、最新の進路情報の提供に努める。	①資料等を利用して生徒に進路情報を提供し、的確な面接指導ができた。 ②夏季セミナーで学習習慣を定着させながら、冬季セミナー・センター直前テスト等を実施し、学力の向上に努めることができた。 ③学年団と進路指導部が連携するとともに、生徒の希望する進路先を保護者と共に把握することができた。
総合評価	①学習面においては教科担任とクラス担任が連携して粘り強く指導を行うとともに、授業以外にも週末課題、補習、夏季・冬季セミナー、土曜日学習会などの学習の機会を整備することで学力の向上を図るとともに、進路資料の提供や面接指導の実施などにより進路実現に努めた。 ②部活動では、弓道部の国体出場を始め、ソフトテニス部、陸上競技部、チアリーディング部が全国大会出場を果たすとともに、多くの部活動が県大会に出場し好成績を収めた。また、学校行事等を通して生徒会執行部や実行委員が中心となって企画・運営に携わることで、リーダーとしての資質も育まれている。 ③年間を通しての身だしなみ指導や交通安全指導、登校指導などの徹底した生徒指導により、生徒は落ち着いた学校生活を送っている。遅刻者数も近年、減少傾向にある。 ④生徒会による大府特別支援学校との交流や学校家庭クラブによる地域連携を通して外部とのつながりを持てたことは、本校の教育活動を周知する機会であるとともに、学校の活性化につながった。また、PTA専門委員会の事業もPTAの協力を得て活発な活動となった。		